

平成29年度 芦原小学校 学校評価書

29年度の集約

項目	具体的取組	評価者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価		
確かな学力①	授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。	教職員	90	100	「伝え合い 学び合う」の研究テーマのもと、全教職員が教材研究や授業研究を行うことができ、教職員・児童・保護者共に目標指数を上回った。また支援員とこまめに意思疎通を取り合い、生活面や学習面でサポートできるようになってきた。	教材研究や授業研究を引き続き行い、電子黒板やタブレットを効果的に取り入れた研究を深める。また、校外の研究会・講演会で学んだことを折に触れて伝え合え、本校の実態に焦点を当てた研究を進めていく。	電子黒板やタブレットを活用した授業の工夫は、子どもたちにとって、とても分かりやすく意欲的になると思う。先生方は大変だが、子どもたちのために教材研究に取り組んでほしい。タブレットが、子どもたちにも身近なものになってきたが、間違った使い方にならないよう配慮してほしい。		
	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている。	児童	80	83					
	授業が分かりやすく楽しいと思う。	保護者	80	90					
確かな学力②	漢字・計算マスターテストを実施する。	漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。	教職員	90	100	マスターテストは来年度も実施。再テストをして定着を図るが、個人の能力に配慮して、達成感が持てるようにして4回以内で合格できるようにした。目標設定については学年で話し合っておき、学年で差がないようにしていた。マスターテスト表と生活チェック表を抱き合わせにして保護者に結果を知らせるのは浸透してきており次年度も実施するとよい。	マスターテストが定期的にあるため、子どもたちは、自学ノートに取り組み易いのだと思う。テスト表で結果が目に見えるため、やる気にもつながっている。年度末に、学年で習った漢字や計算を復習する機会を設けてはどうか。子どもたちの学力向上のため、今後もぜひ続けてほしい。		
		家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。	児童	80	84				
		漢字や計算の力が身についていると思う。	保護者	80	85				
	読書活動を推進する。	読書活動の習慣化を図っている。	教職員	90	93			「家庭読書の日」は引き続き実施するが、保護者の手で感想を必ず書いてもらうようにする。週末には「読書」の宿題を設定し、読書カードを持ち帰って、読書に対する意識を高める。「家庭学習の手引き」に読書を奨励する一文を盛り込み、何度も読書に対する働きかけをする。	子ども達が読書をする習慣(環境づくり)を保護者が積極的に行うべきである。子ども達も忙しく、家庭で読書をする時間の余裕がないように思うが、偉人伝等の本に触れ、心の教育につながれば良いと思う。子ども達が、「楽しい」「読みたい」と自ら思えるような手立てや図書館利用を上手く促すような工夫を今後も続けてほしい。
		学校や家庭でよく本を読んでいる。	児童	80	59				
		学校や家庭でよく本を読んでいると思う。	保護者	80	42				
健康で安全な態度①	生活スローガン「あいえお」を実践できる児童の育成に努める。	清掃の指導・監督を徹底する。	教職員	90	88	大勢の児童に清掃前の黙想や無言清掃も定着しており、実際の清掃時間の様子は、たいへん真面目である。児童評価結果88%が目標指数90%に達していないことについては、「協力して、時間いっぱい清掃をすることができる」のうち、児童は、自分の役割はしっかりと果たしているが、協力して行っているというイメージがもてていないのではないかと。7月、12月、3月に与えられる「おそうじがんばり賞」を与えられる児童がたいへん増えていることから、我が子が清掃活動に真面目に取り組んでいることを保護者も知ることができ、家庭での話し合いもできていると思う。	清掃前の黙想や無言清掃は、とても良いことだと思うので今後も続けてほしい。「おそうじがんばり賞」で評価してもらえることで、責任感や意欲の向上につながっていると思う。雑巾を洗う、隅々まで丁寧に拭くなどができる、家庭でも手伝いのできる子につながると良いのではないかと。清掃は生活の基本だと思うので、先生方の清掃指導の徹底をお願いしたい。トイレなど清掃しにくい場所は、特にお願いしたい。		
		協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。	児童	90	88				
		清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。	保護者	80	95				
健康で安全な態度②	業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。	業間の体育的活動や運動遊びの充実に努めている。	教職員	90	93	教職員による業間のマラソンや運動遊びについての充実がやや低くなった。業間のマラソンは、全員が参加しているが、屋休みにしては、学習や課題のやり残しをしてから遊びに行くようにさせているので、教職員の結果が低くなった。しかし、児童は、運動が苦手な児童も業間マラソンや運動に熱心に取り組んでおり評価も高い。屋休みに、サッカーやバスケットボール、ドッジボール、一輪車、大縄跳び、雲梯、肋木などで友達と楽しく運動する姿が多く見られる。マラソン大会参観の保護者も多く、家庭の協力も大きい。	個人差はあるが、しっかりと業間マラソンに取り組み、体育の授業でも十分に走るようにさせたい。校庭が使えない冬場も、縄跳び大会と持久跳びタイムチャレンジ、クラス対抗大縄跳び大会などに向けて運動を継続していく。廊下や多目的室などを開放したり、体育館で高学年による縄跳びポラントニア(下学年に教える活動)を行うなど、年間を通して運動を奨励していく。多様な運動遊びを通して、走力だけでなく、握力やジャンプ力などもつけられるように意欲付けしていく。これまでの校内放送での屋休みの外遊び奨励や年2回のマラソン大会で、順位だけでなくタイムアップ賞など自分の伸びを実感できることもねらう。	業間のマラソンや休み時間、子どもたちは運動や体力づくりに自然と日常的に取り組んでいると思う。結果として、運動が苦手な子の評価も高いことは、嬉しいことである。マラソン大会で、順位だけではなく、タイムアップ賞で個々を認めていくことは、自己肯定感につながることで良いことだと思う。マラソン大会を見ていて、遅れている仲間にも声をかけ、一生懸命励ます姿には感動した。今後は、体を動かす楽しさや心地よさを感じられるような場を工夫し、先生方との関わりも増やしてほしい。	
		校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。	児童	90	94				
		体力づくりに意欲的に取り組んでいる。	保護者	80	81				
規範意識①	集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。	元気ある挨拶や大きな返事をする指導をしている。	教職員	90	100	今年度も委員会によるあいさつ運動や、地区ごとのあいさつ運動などの取り組みを行い、目標指数を達成することができた。また、保護者の指数の年々向上している。しかしながら、地域からはあいさつができなかったり、あいさつの声が小さかったりする児童が多いという意見もある。学校内ではあいさつができて、学校外の場面でのあいさつができていないと考えられる。	あいさつについては成果が上がってきているので、今年度のあいさつ運動や生活チェックにおける各児童の振り返りを継続する。また、学校内や知った人だけでなく、学校外や地域の方、あわら市を訪れた人々にも明るいあいさつができるように指導する。きまりについて、文具について細かな部分で統一した指導ができていなかったのも、学校で共通したルールを決めて指導する。	挨拶は、人との関わりにおいて欠かせない言葉である。先生方が、今まで通り明るい挨拶に心がけ、子ども達や保護者に啓蒙していった。地域での挨拶の様子は、しっかり返せない子も見かけるが、多くの子が大きな声で返してくれるのでとても気持ちがいい。また、毎朝児童玄関にて、委員会の子と先生が元気に挨拶している姿もうれしく思っている。高学年が低学年の良い見本となっているので、今後も続けてほしい。「あわら市を訪れた人々にも明るい挨拶ができるように指導する。」とは、とても素晴らしいと思う。小さいころからの意識づけがとても大切である。	
		進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。	児童	80	90				
		基本的なマナーが身についていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶)	保護者	80	94				
規範意識②	当たり前のことが、当たり前に行える児童の育成に努める。	学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる	教職員	90	100	目標指数は上回ったものの、学校で決められている約束事を守れたという児童が若干減少した。学校では「あわらっ子のきまり」で、服装や持ち物、学校内外の生活についての約束事を規定し、多くの部分について児童はその約束事を守って生活をしている。しかし、今年度は廊下を走ってしまう児童が多くなっている。移動の時間がなかったり、天候が悪いときに走ってしまうと考えられる。	廊下を走ることは前年度からの課題である。体育館やグラウンドで児童を看護する教員をしっかりと配置するとともに、全校児童が1日ずつ廊下の歩行を呼びかける係をリレーして、だれもが約束の順守と安全への意識を呼びかけることにより、約束事を守るという意識や安全に対する意識を高める。	廊下を走らないようにするための、児童の主体的な呼びかけは、とても良いことだと思う。善悪の判断は、個々違っているので一人ひとりを見ていくことが大切である。家庭でも、当たり前のことが当たり前に行えるよう、保護者がしっかりとしつけを行うべきである。	
		学校で決められている約束事を守っている	児童	80	91				

思いやりの心①	異なる意見や考え方を尊重し、個を大切に指導の充実を努める。	話し合い活動や発表活動を実施している。	教職員	80	93	教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができたのは、「異なる意見や考え方を尊重しているからで、児童にも浸透してきた。また、道徳・集会・総合でも地域の人から話を聞き、感謝の心を伝えることもできた。	教職員は、授業に話し合いや発表ができるような学習活動を引き続き実施していく。児童にも「自分の思いを伝え、他の思いを受け止める」ことが思いやりにつながることを体験を通して理解させ、学習にも取り入れていく。	授業を見ていても、自分の考えをしっかりと発表できることに驚いた。一人ひとりの意見や考え方を受け止める先生方の姿勢から、思いやりの心につながる影響はとて大きいと思うので、これからも大切にしていきたい。
		様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。	児童	70	82			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	70	89			
思いやりの心②	道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てている。	教職員	80	85	教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができた。継続して道徳で「思いやり」の心を理解して、あらゆる教科で体験し、事後には必ず感謝の心を伝えるようにする。	来年度も体験を通して「思いやりの心」や「感謝の心」が伝わるような機会を設ける。また、昼休みなどに発表の場を設けたり縦割り班との活動を通して異学年との交流を図る。	道徳の時間に学んだことと行動が、普段の生活の中でもなっているか、それを意識して振り返ることが、児童や先生方も大切だと思う。また、学校だけでなく家庭でも、思いやりや感謝の心をもって行動できる子を育ててほしい。
		思いやりや感謝の心が育っている。	児童	80	92			
		思いやりや感謝の心が育っている。	保護者	80	93			
	いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。	いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。	教職員	80	100	教育相談のアンケートや「いじめきらい宣言」を実施して効果が得られた。直前に保護者向けの「友達関係アンケート」も実施したのはいじめを見逃さない意識が高まってきている。「いじめ防止基本方針」を何度も配布したので徐々に目標指数に近づいてきており、学校はいじめのない学校や学級づくりに取り組んでいるという保護者の評価を得られた。	アンケート・教育相談・アンテナ会議・いじめ対策委員会を引き続き実施し、いじめの未然防止に努める。保護者に「いじめ防止基本方針」がさらによく理解されるように、項目だけなどにして簡略化したものも用意して、粘り強く知らせるとよい。	教職員と児童の結果の差が少し気になる。児童の中には、いじめのない学校や学級づくりになっていると感じていない子もいるので、より一層細かな配慮をお願いしたい。一人ひとりに向き合うことは、多忙の中難しさもあると思うが、「先生の見えないところで・とならないよう学校全体での目配りをお願いしたい。
授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけるよう心がけている。	楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけて教えてくれる。	教職員	80	100	教職員、児童、保護者とも、目標指数を大きく上回った。特に児童、保護者の満足度は、例年に比べ大変高くなっている。二学期制のメリットを効果的に活用し、長期休業前まで通常の学習ができることや休業中の学びを後半の授業に活かすことで、よりダイナミックな指導計画をたてることができた結果と考えられる。また、担任と支援員が協力することで、個に応じた丁寧な指導が実施できている。	2学期制のメリットである授業の連続性を生かしながら、今後も児童一人一人に寄り添い、よりきめ細やかな指導を職員全体で心がけていく。特に日々の授業改善に努め、「楽しく、わかる授業」づくりにしっかりと取り組んでいく。	先生方が、一人ひとりを大切に授業を重視し、分かりやすく楽しい授業を工夫されていることが、保護者にも伝わっている。先生方のご努力が分かる。今後とも分かりやすく楽しい授業を行っていただきたい。
		先生は、楽しくわかりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	児童	80	91			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	80	92			
児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	日常の対話により児童の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行っている。	先生と、学習や生活について話をする時間がある。	教職員	80	100	教職員の意識と児童の実感が一致しない結果となった。教員と十分にコミュニケーションがとれていると感じている児童は73%と目標指数よりも低く、満足度が得られていない児童がいることがわかる。	毎日の学校生活の中で、児童一人一人と細やかにコミュニケーションを図るため、よりいっそうの工夫をする。また教育相談等への取組をより充実させ、定期的に実施しているアンケート結果を生かしながら、教員が児童の思いをしっかりと把握していく。また、一方で、日々の学校生活の中で、教師と児童がゆとりと向き合える時間を確保するための取組(例えば昼休みにいっしょに遊ぶ等)を進める。	児童と先生方との意識の違いがあることから、児童は先生との関わりを求めていることが分かる。忙しい中、子ども達一人ひとりと十分に話す時間は限られると思うが、今後とも積極的な声かけをよろしくお願いしたい。
		先生と、学習や生活について話をする時間がある。	児童	80	73			
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	教職員	80	100	保護者の満足度が目標指数よりもやや低い結果となった。長期休業中の課題については「夏休みの課題」や「夏休みの生活表」等を配布し、長期休業前に担任より児童に、学習の進め方について指導しているが、実際に家庭での学習ではなかなか計画的に進められない児童がいる実態が見られた。	長期休業の前後の学習に継続性をもたせ、課題の内容を工夫することで児童の意欲を高める。児童への事前指導のなかで、長期休業中の基本的な生活習慣について見直しを行い、計画的に課題に取り組む時間を確保する。また保護者に課題の内容を十分に伝え、家庭での計画的な学習に協力を求めていく。休業中は学校で補充学習を実施しており、ここへの参加を促し、より積極的に課題に取り組む姿勢を育成していく。
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	教職員	80	94	保護者の満足度が大変高い結果となった。学校での子ども達の頑張る姿を伝えるため、教員は個人懇談で面談したり、通知表によって児童のがんばりを伝える他、学習の成果であるワークシートや製作物等を工夫して展示してきたことが保護者の理解につながっていると思われる。	今後も引き続き個人懇談や通知表を通して、学習や生活の様子を丁寧に保護者に伝えていく。そのために資料等については工夫を重ね、より分かりやすく保護者に情報を伝えていく。また、ホームページの更新をできるだけ頻繁に行い、学校からの情報発信に努めていく。	保護者の満足度が高いことから、先生方が細かに学習や生活の様子を伝え、保護者との連携が密になっていると感じる。先生との懇談は、子どもの様子を知る貴重な機会なので、これからも大切にして、時間も十分とってほしい。
		先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児童	80	86			
		個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	97			
開かれた学校	教育活動を積極的に公開する。	計画的に学校を公開する。	教職員	80	100	年度初めの学校開放予定日をホームページ等で公開したり、学年だよりを通じてより具体的な児童の活動の様子を知らせたりすることで、保護者の学校公開授業参加率も伸びている。特に11月に実施したオープンスクールでは、各学年で多くの保護者の来校が見られた。学校公開の際には保護者アンケートを実施し、保護者や地域の方の意見をいただくことでより開かれた学校づくりに役立ててきた。	学校開放をとても楽しみにしてくださっている保護者や祖父母の方々がいる。また、児童や教員にとっても日頃の学習の成果を見ていただく大切な場である。今後も学校公開を重要な行事としてとらえ、保護者アンケート等を活用しながら、より参加しやすい公開の在り方について検討していく。	入学式や卒業式に参加して、子ども達のはきはきた態度に感心した。オープンプラスは、学校での子ども達の生活ぶりを見ることができるので、今後も続けてほしい。
		学校公開に多くの保護者が参加することができる。	保護者	60	79			
		学校での子ども達の様子や活動ぶりを知ることができる。	保護者	70	86			
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	教職員	80	100	学校からの情報発信について、保護者の満足度が年々高くなっている。毎月の学校だよりや学年通信による情報発信、アンケート等の結果のお知らせ等、児童の学校での様子や学校からの連絡を定期的に発信してきた。また、台風等の緊急時には、緊急メールにより学校の対応を迅速に伝えるよう努めてきた。今年度はホームページの更新回数も増やし好評を得ている。ただ、学級だよりのホームページへのアップは、児童の個人情報保護のため実施していない。	今後も、学校だよりや学年通信により、各月の行事や学校での児童の活動の様子、学校や担任から保護者に伝えたいこと等を保護者に細やかに伝え連携を図っていく。学年だよりについては、月末に、翌月の予定等を詳細に掲載しているため必ず目を通していいただきたい。ホームページについては今年度のように更新を増やし、学校行事や学校からの連絡等を、タイムリーに発信していく。
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	保護者	80	89			